透析患者に関する薬剤情報

医療法人仁真会 白鷺病院 薬剤科

## ◎マーカイン注脊麻用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ブピバカイン 塩酸塩水和物 Bupivacaine Hydrochloride Hydrate 【分類】局所麻酔剤[脊椎麻酔剤]

【単位】◎0.5%/A [4mL] (高比重), ▼0.5%/A [4mL] (等比重)

【常用量】 脊麻用:1回10~20mg(2~4mL),1回最大20mg(4mL)

【用法】脊髄クモ膜下腔に注入

【透析患者への投与方法】抗凝血薬投与中の患者は出血に注意して投与(1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量(1)

【特徴】保存剤を含有しない脊椎麻酔専用製剤. 脂溶性はリドカインの約10倍,麻酔力は4倍,麻酔特続時間は2~5倍の作用時間の長い局所麻酔剤. 麻酔発現はリドカインより少し遅い. 血管収縮作用がありエピネフリンを添加しても麻酔時間は延長しない. 高比重製剤にはブドウ糖が添加されている. 作用発現時間は高比重製剤が早く,作用持続時間は等比重製剤が長い.

【主な副作用・毒性】ショック、振戦、けいれん、不安、霧視、めまい、じんま疹、浮腫ショック、過度の血圧低下、徐脈、呼吸抑制、心停止等があらわれることがある。 脊髄麻酔時、身長の低い患者では血圧低下の発現率が高くなる傾向がある。

【BA】脊髄クモ膜下腔に投与後、血中に100%吸収される(1)

【tmax】硬膜外投与で10.2~30min,硬膜外に100mg 投与後の Cmax は0.8 μ g/mL (13) 脊麻後の血中 Tmax は,等比重2.2hr,高比重1.6hr(1)

【代謝】 CYP3A4 で代謝 (1) 肝代謝され脱ブチル化体および4・水酸化体となるが、それらの濃度は未変化体の 1/5 (1) 代謝物に活性があるかはデータなし (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 2% (13) 6% [iv, 24hrまで] (1) 尿中に脱ブチル化体として 5%回収 [iv, 24hrまで] (1)

【CL】583mL/min (10) 7.1mL/min/kg、加齢により低下 (13) 0.58L/min (1) 高齢者の全身 CL は若年成人の 1/2 に低下 (1) 【非腎 CL/総 CL】95% (10)

【t1/2】2.7hr(10)1~3hr(11)2.4hr(13)高比重:6.6±3.3hr(1)

【蛋白結合率】96% (10) 95% (13) 92±0.6% (1) アルブミンと AAG に結合 (1)

【Vd】 1.0L/kg (10) 73L/man (11) 0.9L/kg (13) 73L (1) 硬膜外脂肪組織への移行性はリドカインより高い (1) 血球への分布は低い (1)

[MW] 342.90 [salt hydrate]

【透析性】蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない (5)  $4\mu$  g/mL 以上が中毒域 (1) 【O/W 係数】高い (11) 27.5 [n-ヘプタン/buffer, pH7.4] (1) 【pKa】 8.2 【更新日】20250524

※正確は情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適別性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、 直接または間路がに生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。 ※本サイトに掲載の記事・写真などの無期産載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。